

# 令和3年における旭川市の人口動態について

## 1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1~12月)人口動態

(単位:人)

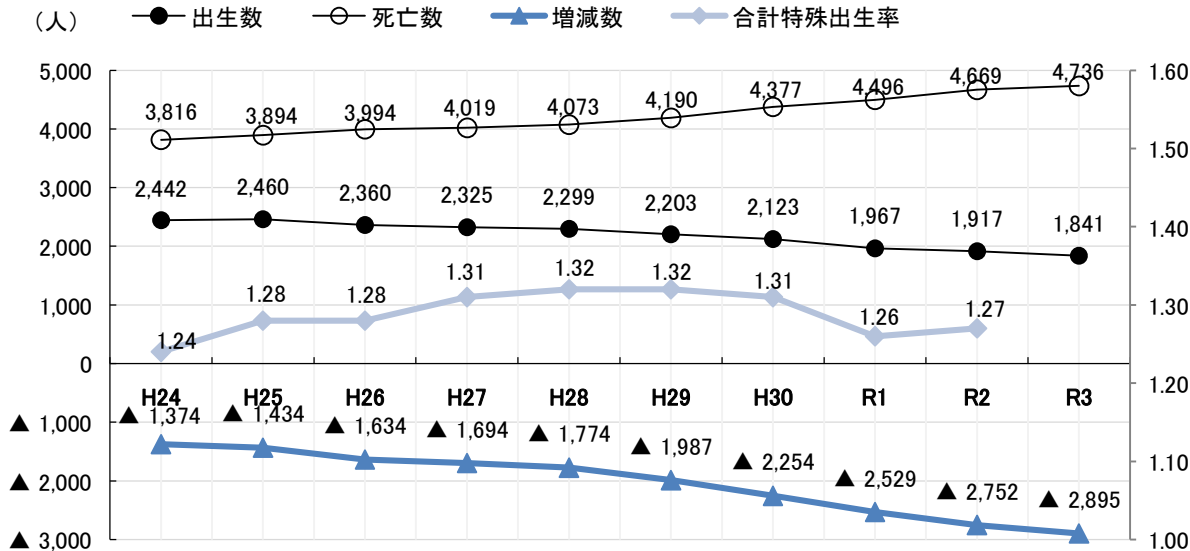
	次年1月1日 現在人口	自然動態			社会動態			全体 増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計	
令和1年	334,070	1,967	4,496	▲ 2,529	10,800	11,593	▲ 793	▲ 3,322
令和2年	331,397	1,917	4,669	▲ 2,752	10,490	10,411	79	▲ 2,673
令和3年	327,960	1,841	4,736	▲ 2,895	10,039	10,581	▲ 542	▲ 3,437
R3-R2差	▲ 3,437	▲ 76	67	▲ 143	▲ 451	170	▲ 621	▲ 764

(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和3年1月~12月における人口動態は3,437人の減少で、自然減2,895人、社会減542人となった。
- 自然増減は前年比143人の減少拡大、社会増減は前年比621人の減少となった。

## 2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1~12月)自然増減の過去10年間推移



○ 死亡数は、増加が続いており、令和3年は前年より67人多い、4,736人となった。

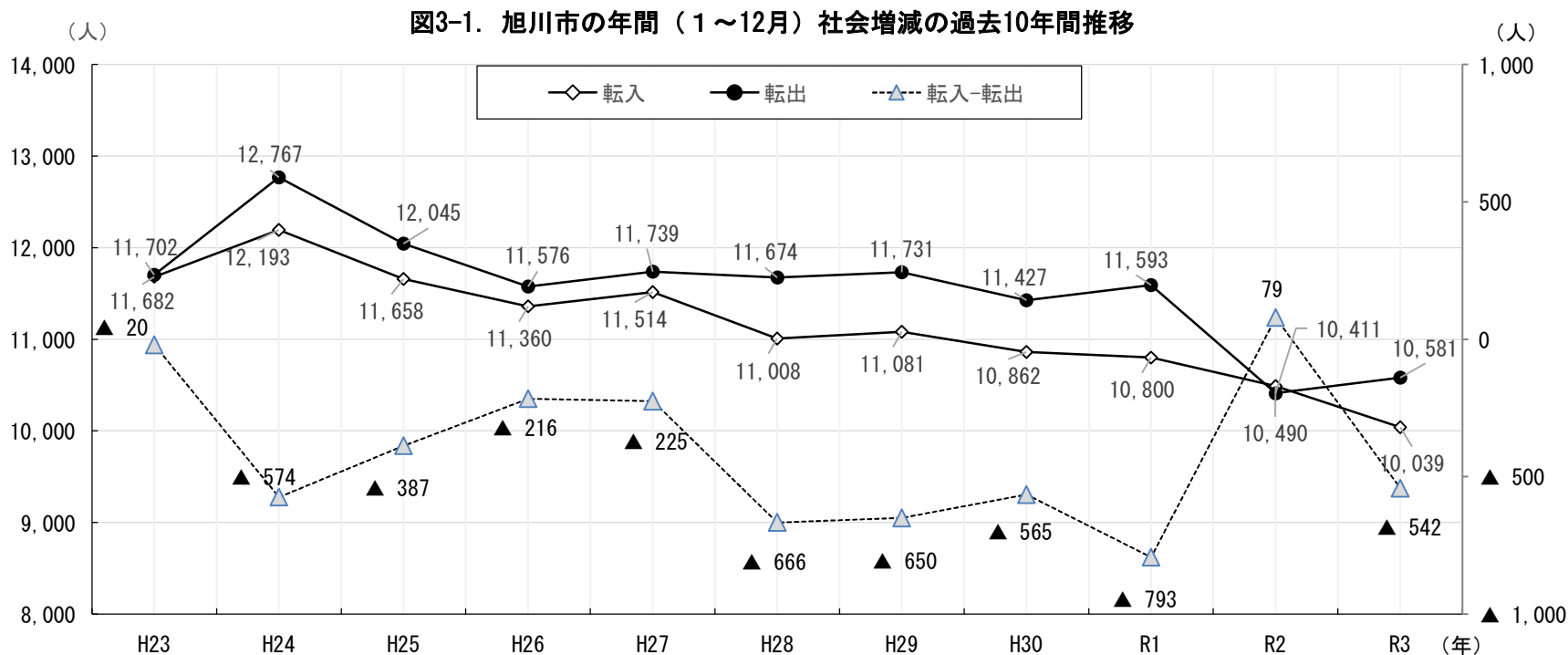
○ 出生数は、平成26年以降、毎年減少を続けており、令和3年は前年より76人少ない、1,841人となった。

○ 出生率は、平成24年以降、増加傾向で平成28年には1.32となったが、令和元年は1.26まで減少し、令和2年は横ばいの1.27となった。(国1.34 北海道1.21)

(参照:統計で見る旭川(市HP)ほか)

### 3 社会増減の状況

#### (ア) 推移

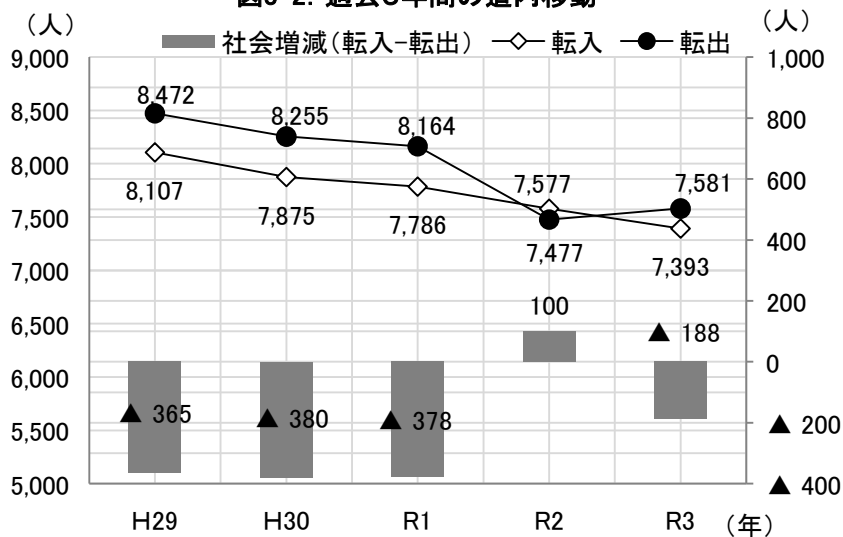


(参照:統計で見る旭川(市HP))

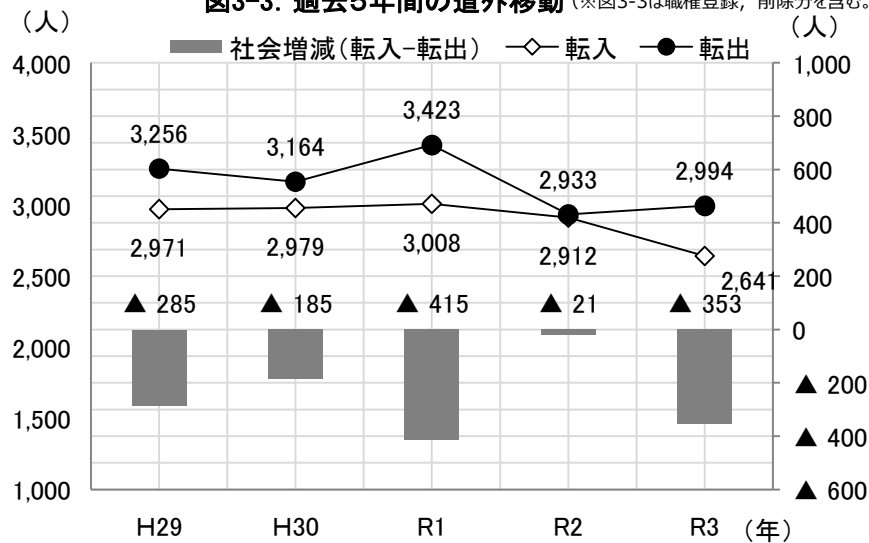
- 令和3年の転入者数は、10,039人で前年より451人減少し、過去10年間で最も少ない水準となっている。
- 令和3年の転出者数は、10,581人で前年より170人増加し、過去10年間で2番目に少ない水準となっている。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、前年より621人減の542人の転出超過となった。
- 令和2年の転入超過（79人）から令和3年は転出超過（▲542）に転じたが、転出超過数は令和元年と比べると3割少なくなっている。

# (イ) 地域別転出入状況

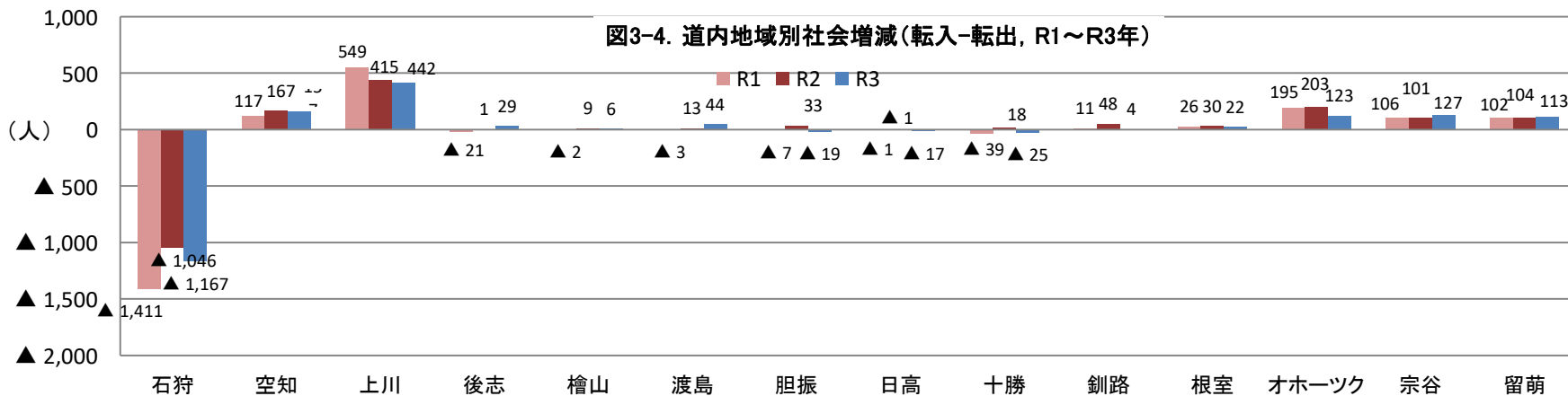
### 図3-2. 過去5年間の道内移動



### 図3-3. 過去5年間の道外移動 (※図3-3は職権登録, 削除分を含む。)



### 図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, R1~R3年)



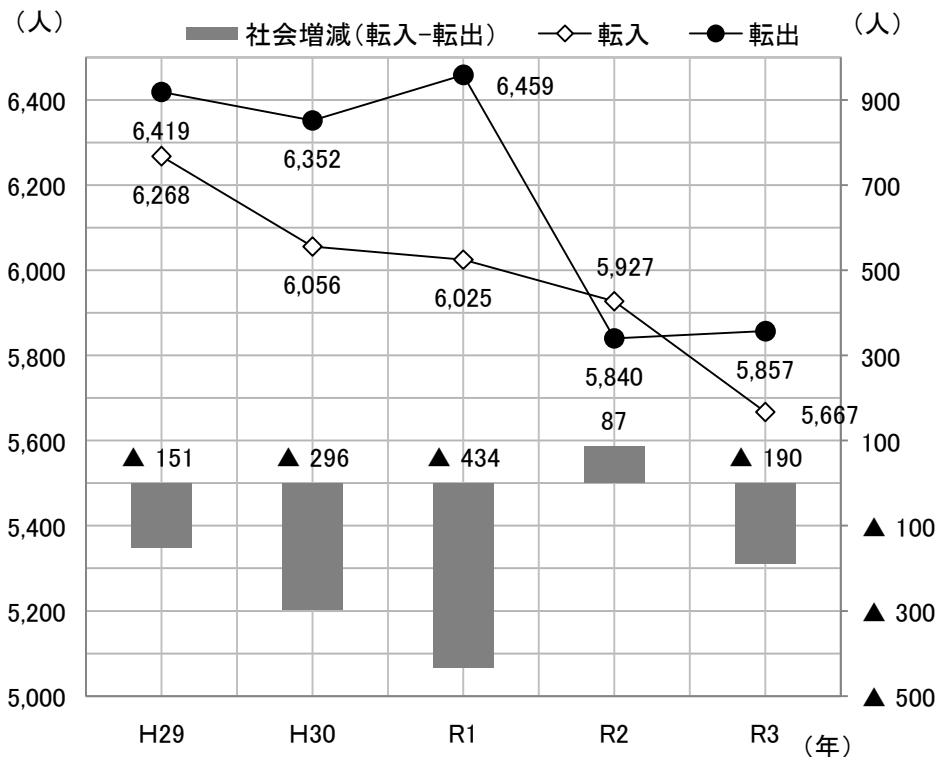
【主な特徴：道内、道外ともに転入が減少、転出が増加。特に道外の転入が大幅減少】

(旭川市調べ)

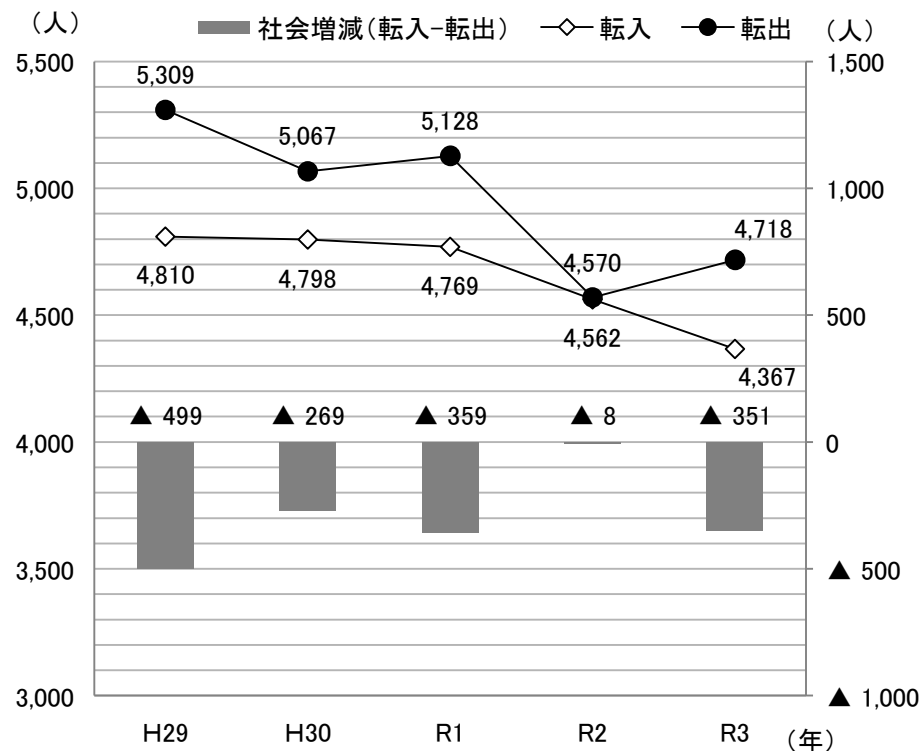
- (図3-2) 道内移動については、転入者数が平成26年以降8年連続で減少が続いている。一方でR2に大幅に減少した転出者数が増加し、結果として188人の転出超過に転じた。
- (図3-3) 道外移動については、転入が前年より271人の大幅減、転出が61人の増となっており、結果として353人の転出超過となった。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、転出超過が最も大きい石狩地区が前年より121人増加し、1,167人転出超過。一方で空知、上川、オホーツク、宗谷、留萌といった道北、近隣地域からの転入超過が100人を超えている。

## (ウ) 男女別転出入状況

### 図3-5. 男性・移動推移



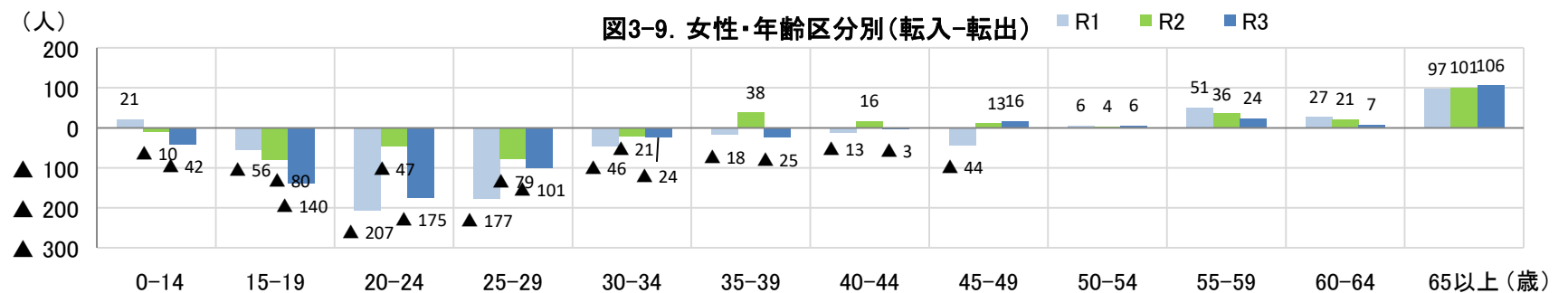
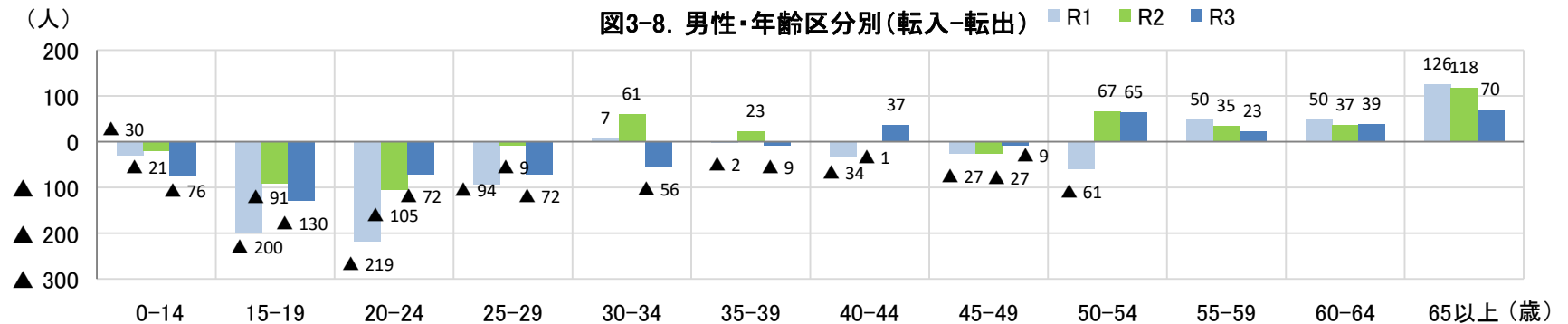
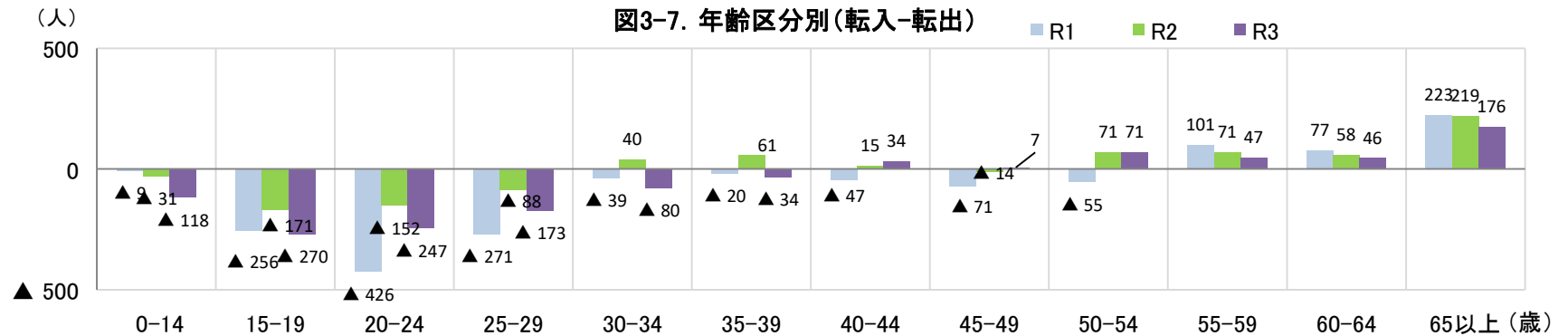
### 図3-6. 女性・移動推移



【主な特徴：男女とも前年より転入が大幅に減少し、転出が増加。女性はコロナ前の水準まで転出超過が進む】

- (図3-5) 男性は、転入が前年より260人の大幅減、転出が前年より17人増加した結果、前年の87人の転入超過から、190人の転出超過に転じた。ただし、R1年に比べ転出超過数は半分以下の水準となっている。
- (図3-6) 女性は、転入が前年より195人の大幅減、転出が前年より148人の大幅増の結果、前年8人の転出超過から、351人の転出超過に大幅に増加した。R1年の水準に戻っている。

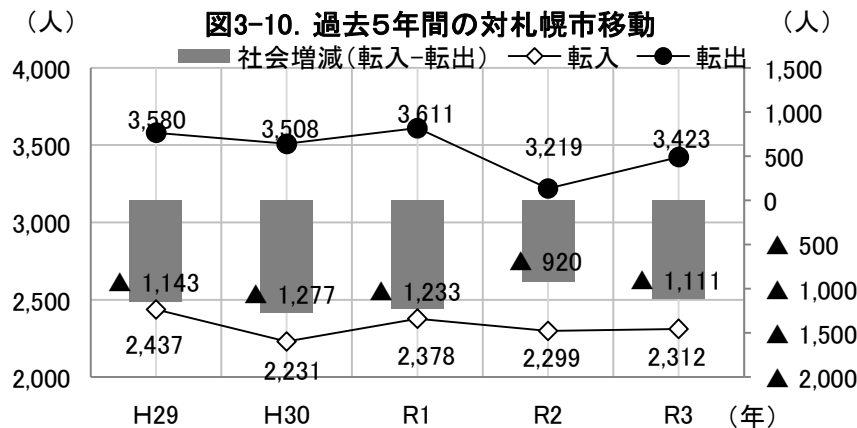
# (工) 年齢区分別転出入状況



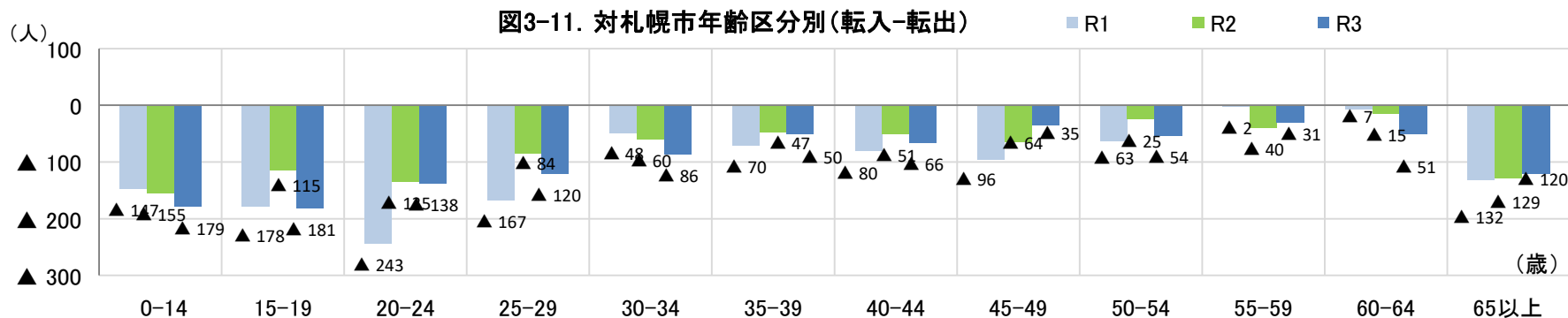
【主な特徴：男女とも若年層（0歳-29歳）転出超過が進み、30歳-39歳でも転入超過が転出超過に転じた】

- (図3-7) 年齢区分別では、15歳-29歳の転出超過は継続しコロナ前に迫る水準となり、0歳-14歳は大幅な転出がみられ、30歳-39歳は前年の転入超過から転出超過に転じた。また、40歳以上は全ての区分で転入超過となっているが超過幅は減少傾向がみられる。
- (図3-8) 男性では、前年と比較し、20-24歳が33人の転出超過の減少がみられたが、0歳-14歳で55人、15歳-19歳で39人、25-29歳で63人と転出超過が増加した。また、30-39歳は前年の転入超過から転出超過に転じた。
- (図3-9) 女性では、前年と比較し、20-24歳が128人の大幅な転出超過減少となっており、35歳-44歳は転入超過が転出超過に転じた。また、45歳以上の全ての区分において転入超過となった。

## (才) 対札幌市転出入状況



(図3-10)  
道内移動でも最も転出超過となっている対札幌市との転出入は、前年より転出が204人、転入が13人増加した結果、転出超過数は前年より191人多い1,111人となった。



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっている。

## 4 令和3年における人口動態のまとめ

- 自然減の拡大が継続し、社会減についてはコロナ前に戻りつつあることから、年間の人口減少数が過去最大の3,437人となった。
- 自然増減については、前年より、死亡数が67人増加、出生数が76人減少となり自然減が拡大している。
- 社会増減については、
  - ・全体としては社会減が前年より621人拡大(79人→▲542人)、R1と比べ251人縮小(▲793人→▲542人)
  - ・道内移動については、転入者数が平成26年以降8年連続で減少が続いている。
  - ・道外移動については、転入が前年より271人の大幅減、転出が61人の増となり、コロナ前の転出超過水準に戻った。
  - ・年齢別では、15歳-29歳の若年層の転出超過が大きいことに加え、R3からは30歳-39歳も転出超過へ転じた。